



【めざす生徒像】

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 『友愛』 他人に思いやりを持ち、ともに高め合う生徒 | 【社会の創り手となる生徒の育成】 |
| 『礼節』 礼儀と節度を守る生徒 | 【他者を価値のある存在として尊重できる生徒の育成】 |
| 『協力』 力を合わせ、よい校風をつくる生徒 | 【多様な人々と協働できる生徒の育成】 |

【学校教育目標】

生徒一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り開く力を育み、社会の作り手となる生徒を育成する。

世界中を熱狂させたサッカー・ワールドカップ（W杯）北中米大会が、日本時間7月20日に幕を閉じました。決勝ではスペイン代表がアルゼンチン代表を破り、見事に頂点に立ちました。実は予選も含めるとオリンピックを超える211もの国と地域が参加したそうです。日本代表も決勝トーナメントで強豪ブラジルを相手に一歩も引かない激闘を繰り広げ、私たちに大きな感動と刺激を与えてくれました。

今回の日本代表の戦いから、中学生の皆さんにぜひ知ってほしい重要なキーワードがあります。それは「主体性」です。近年の日本代表は、森保一監督の「ピッチの上で判断し、決断するのは選手自身だ」という方針のもと、選手たちが主体となって戦うチーム作りを進めてきました。試合中、相手の出方に合わせて戦術をガラリと変えるときも、ベンチからの指示をただ待つのではなく、選手たちがピッチ上で瞬時に話し合い、自分たちの頭で考えて状況を修正していったのです。誰かに言われた通りに動くのではなく、「今、自分が何をすべきか」を自ら考えて実行する姿は、まさにこれからの時代を生きる中学生の皆さんに求められる姿そのものです。



森保監督が実践した「主体性」を高める3つの取組

- ① あえて答えを与えず、現場が動き出すのを「じっと待つ」
細かな指示を出さず、海外で揉まれたプロ選手が自ら動くのを3年以上待ちました。
- ② 質問には「逆質問」で返し、思考を止めさせない
意見を求められても「君はどう思う？」と問い返し、自分で考えさせることを徹底しました。
- ③ 挑戦と失敗を100%許容する環境づくり
ミスを責められない環境を作り、「その場で自ら戦況を判断し、戦術を柔軟に変える」という最高レベルの主体性が発揮されました。

しかし、結果的には日本代表はブラジルに破れ、世界一には届きませんでした。そこで突きつけられた「世界との差」は、世界トップクラスの選手たちが持つ、圧倒的な「個の力」です。日本の強みである「組織力」は世界から高く評価されました。しかし、勝負を分ける決定的な場面で、一人で相手を突破する技術や、自分の責任でシュートを決めきる「強い個」の存在において、世界にはまだ高い壁がありました。集団の中に埋もれることなく、一人の人間としてどれだけ自立し、強い実力を持てるかという、新たな課題が見えた大会でもありました。日本代表はこの悔しさを胸に、すでに4年後の大会に向けた新しい挑戦をスタートさせています。中学校生活も同じです。先生や親に言われたからやる「指示待ちの勉強や部活動」からは、もう卒業しなければなりません。自分の頭で考え、行動する「主体性」をベースにしながら、同時に「自分自身の強み」を徹底的に磨く期間にしてください。皆さんが未来の主役として、自分の力でピッチに立ち、活躍することを期待しています。



2学期がスタートしました。1年の中で最もじっくりと勉強や部活動に打ち込めるのが、実はこの2学期です。特に3年生にとっては、進路の選択という「自分で決断し、自分の力で勝負する」大事な時期を迎えます。日本代表の前に立ちどかした世界の強豪国は、ピンチの時ほど「自分が試合を決めてやる」という圧倒的な個人の力を持っていました。皆さんも、日々の学習や部活動の中で、「苦手だから」「これくらいいいや」と自分で限界を決めず、もう一歩先へ踏み出す強さを身につけてほしいと思います。「自分で考えて、自分でやり抜く」。そんな強いこだわりを持った2学期にしていきましょう。

令和8年7月28日に熊本県で最大震度7を観測する大地震が発生しました。この度の地震により、お亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表します。また、被災されたすべての皆様に心よりお見舞い申し上げます。

今回の地震では建物の倒壊やライフラインの断水などが相次いで発生しました。さらに、連日35度から40度近い記録的な猛暑の中での避難生活となり、熱中症対策も深刻な課題となっています。

地震は日本のどこでも起こりうるものです。日頃から被害を最小限に抑え、自分と大切な人の命をつなぐために、今からできる備えから進めていしましょう。